

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・音楽的基礎知識、読譜に関する技能について基礎ワークに取り組みある程度の効果があった。
- ・授業規律について、落ち着いて授業を受けることができ学習効果が上がってきている。
- ・歌唱において、パートリーダーを中心に練習をすすめることができた。

(2) 課題

- ・実技において、歌唱の発声法が身につけていない生徒がいる。
- ・自分の意見を明確に持ち、その根拠を自分の言葉で記述できるようにする。
- ・合唱練習の進め方・流れを定着させ、技能の向上を図る。

2 大田区学習効果測定の結果分析

音楽科は効果測定未実施のため略

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
歌唱において、身体全体をつかって発声するなど基礎を定着させていく。音符や楽譜について、また、様々な楽器や音楽について知識を増やし思考判断表現の基礎とする。	各題材に対して創造的な活動が行えるよう、話し合い活動の方法を学ぶ。その中で人それぞれの感受の違いなどに共感や批評をしつつ自分なりの考えを見つけられるようになる。	自主的自発的に音楽活動に関わっていけるよう、歌唱においては各リーダーを中心に合唱練習が行えるよう指導していく。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
音楽を形作っている要素や、様々な楽器についての知識を身に付けさせる。また、身に付けた知識を演奏に生かすことができるようにする。	各題材に対して創造的な活動ができるよう、パート練習などで周囲の意見も聞きながら、根拠をもって、具体的に自分なりの考えをもつことができるようにする。	歌唱において、各リーダーを中心に練習しつつ、表現の幅が広がるように、自主的自発的に練習するように促す。成果と課題を振り返り、次の活動につなげていく。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
身に付けた知識を活用し、知覚したことと感受したことを演奏に反映することで、曲想にあった表現をすることができるようにする。そして繰り返し練習することで、技能の定着を図る。	各学習活動の中で、パート練習などで多様な意見を聞きながら、曲にふさわしい表現ができるよう、粘り強く考え、具体的に表現することができるようにする。	歌唱において、各リーダーを中心に練習しつつ、表現の幅が広がるように、自主的自発的に練習するように促す。成果と課題を振り返り、次の活動につなげていく。